

タイをハブ拠点化

現地自動車分野も深耕

中興化成工業はタイ拠点を東南アジアのハブ拠点に位置づける。2021年からタイ、マレーシアおよびベトナムを管轄する中興化成(タイランド)にインドネシアを担当させることを決定。日本の本社と連携しつつ、フッ素樹脂製品の商圏拡

大を推進する。タイでは今夏、倉庫面積を倍増するなど順調に業容を拡大している。同社ではタイの自動車産業への働きかけを軸にさらなる成長を目指す。

中興化成(タイランド)は2014年に設置した現地法人。11年に設置した駐在事務所と連携しながら、フッ素樹脂フィルムをベースにした「テフロン」ブランドの粘着テープを中心に、フアブリックやチューブなどをタイ国内や周辺国に展開している。事業規模は右肩上がり拡大しており、これまで使用していた倉

庫が手狭になったことから、新たに外部倉庫を確保しストック機能を強化している。

既存事業が軌道に乗っていることから、さらなる業容拡大に向けて21年からインドネシアを管轄させることを決定。並行して周辺国の市場調査も

進めている。昨年来始めているタイの地方企業への売り込みでは、フッ素樹脂製品の潜在需要を確認しており、小ロット対応や支払いシステムの工夫などにより市場の掘り起しに挑戦していく。コンベアーベルトなどの分野では食品などが付着しにくく、カビも生えないため清潔さを保つことが可能で、交換頻度を大幅に削減できるといったメリットが関心を集めている。

自動車分野の掘り起しもテーマ。改めてタイの自動車産業の市場構造を調査し、パーツごとに集中して提案活動を始めた。現地人件費は上昇基調を続けており、生産の効率化につながるフッ素樹脂製品の事業機会は高いとみて、日本との連携も強めて訴求力を高めていく。多孔質のフィルムやチューブも期待の製品に位置づけており、潜在ニーズ掘り起しのためメールマガジンやソーシャルネットワーキングサービス、検索エンジン最適化(SEO)なども活用していく。